

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0023 福岡市中央区警固
2-1-17 ハイミみかげ803号
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.133

2017年10月11日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 山びとの寄り合い／画・甲斐大策

朝倉の豪雨災害とアフガニスタン	中村 哲
門衛からスタート、農業計画の中心に	アブドル モクタール
キッチン仕事をメインに15年働いています	ダワ ジャン
ダンプカーの運転手一筋に努めています	マティウラー
PMSを支えるために	瀬上 拓史
●カラー特集 マルワリードII取水口完成をめざす。訓練所完成間近	

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

朝倉の豪雨災害とアフガニスタン

「故郷の回復」これが国境を超える共通のスローガン

PMS(平和医療団日本)総院長／ベシヤワール会現地代表 中村 哲

暑く長い夏が終り、やっと秋の気配です。皆さん、お元気ででしょうか。

朝倉の水害とアフガニスタン

今夏日本で、いろんなことに遭遇しました。七月五日の福岡県朝倉市の洪水被害(九州北部豪雨災害)は寝耳に水で、まさかと思いました。帰国後訪れて驚きました。災害のパターンがアフガニスタンに似てきているのです。現地PMSにとって、朝倉は伝統技術のモデルを提供してくれた地でもあり、典型的な「日本の故郷」の一つです。無関心ではおれません。

第一に、支流域の大被害です。これは集中豪雨が特定の地域(溪谷)に限局して大きな被害を起こし、他の地域では時に水不足さえ起こすほど、降雨が少ないことです。以前から知られていた「ゲリラ豪雨」の巨

大化です。私たちがマルワリード用水路流域で悩まされてきたパターンに酷似しており、現地ではいかに土石流や鉄砲水を避けるかで多大の労力を割きました。

元来「水害」といえば、本川の水があふれて、流域に被害をもたらすものが大半でした。治水の重点は本川の堤防強化に置かれていました。それが、いつ何時、背後をつかれるか分からない状態になったということです。

第二に、膨大な流木です。日本は森の国です。国土の三分の二を占める森林は、アフガニスタンの万年雪に比肩されるほど貯水能力が高く、河川水の安定に寄与してきました。それがあつげなく削り取られ、尋常でない量の流木を生み、凶器として人里を荒らしたことが印象に残りました。

敗戦直後に植林されたスギやヒノキらの

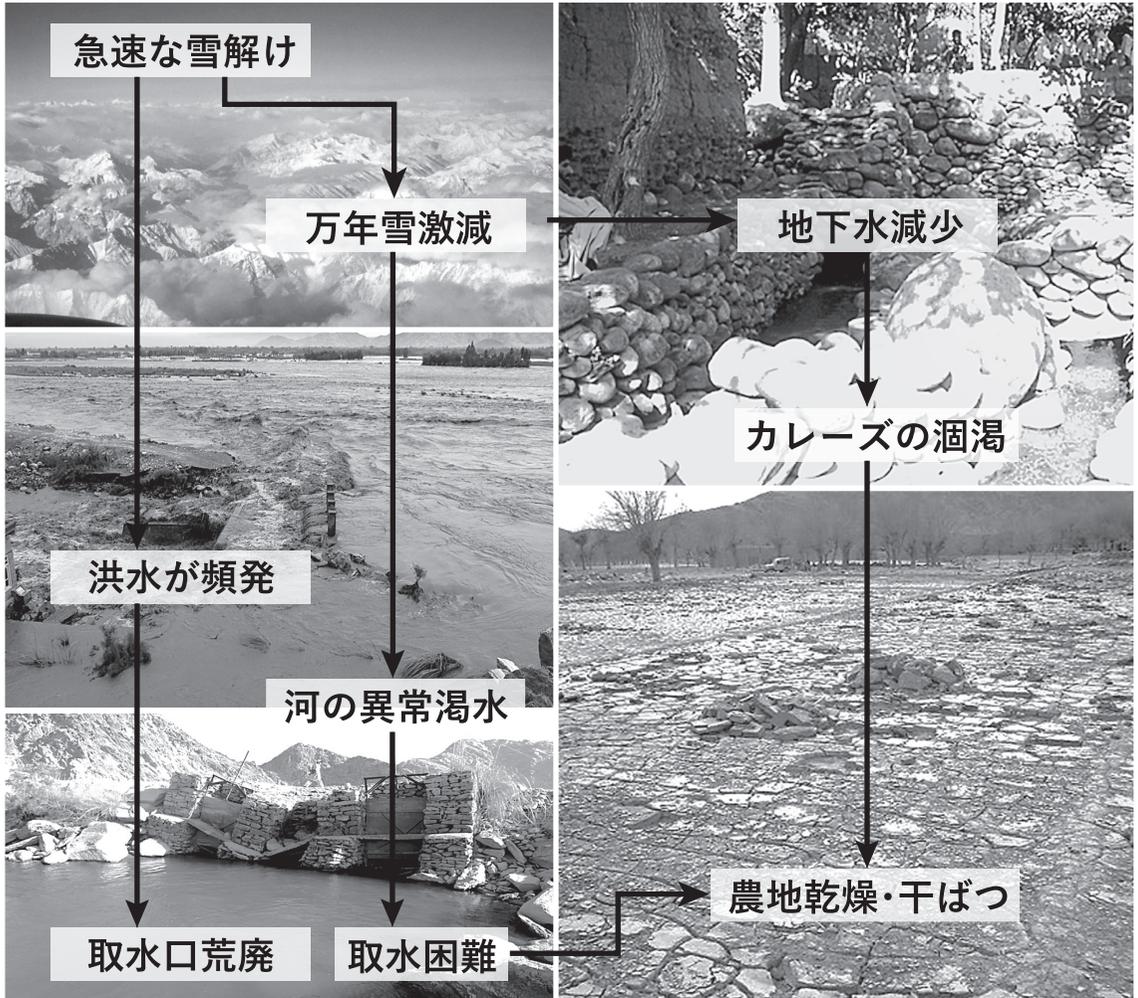


今夏は2010年規模の大洪水が予想され、村や田畑を守るため必死で護岸工事が進められた。マルワリードⅡ用水路周辺クナル河(2017年7月25日)

針葉樹は、今や森林の半分以上を覆っています。自然の雑木林と異なり、手を加えないと根が浅くなり、保安林として機能し難くなります。治山が治水と一体であることは、以前から強調されてきたことですが、これほどの被害を体験したのはおそらく近年なかったことです。

植生に乏しいアフガニスタンは流木こそありませんが、巨礫の塊が音をたてて鉄砲水と共に谷を下ってきます。朝倉の被害地

温暖化による洪水と沙漠化



村民たちは、籠、練石積み、砂利の山など様々な工夫を凝らし洪水から村を守って来た。コーティー村(2017年7月26日)

の流木の山は、それを彷彿させるものがありました。

治山から見えるもの

以上が気候変化⇨温暖化に由来することは間違いなく、危機的な状況は日本も同じだと感じています。更に、飢饉こそないものの、日本では深刻な問題が加わります。里山の衰退です。アフガニスタンのように、水さえ引けば多くが回復するという単

純な図式ではなくなっています。

象徴的なものが流木の処理で、これには改めて愕然としました。アフガニスタンでは流木も大変な貴重品で、洪水となれば村落は活気づき、一家総出で流木拾いに熱中する光景が普通です。薪や建材を「収穫する」絶好のチャンスだからです。

対照的に日本では、ゴミとしかみなされない現実があります。加工すれば十分に材木や薪として使用できますが、加工や輸送



マルワリードⅡ用水路底にソイルセメントを敷く職員と作業員たち
(2017年9月17日)

に高い費用がかかり、安い輸入木材に太刀打ちできないのです。ここ数十年、外材輸入が林業に従事する人々の生計を圧迫し、日本の林業は大打撃を受けました。最近になり、やっと三割の自給率を維持する程度なのです。

しかも、大量の外材は南米や東南アジアなど熱帯雨林のある国々から来ます。熱帯雨林の急速な減少が温暖化を加速していることは、以前から危機的に述べられていま



マルワリードⅡ用水路から送水されるカチャラⅡ分水路建設
(2017年8月13日)

す。しかし、商業上の利益や市場（消費）の動向だけで「国の富」が考えられがちな世情で、このような流通のあり方こそが危機的な悪循環を作っていると言えます。おそらく農業も同様な構造であろうと思われる。安い、儲かると言っているうちに、自分たちの古巣を壊し、食べ物を作る人が居なくなってしまう事態になりかねません。

このところ北朝鮮のミサイル騒ぎや世界的なテロ事件の広がり、危機管理や国防



活着しているナツメヤシの木。冬季に移植する予定。PMSガンバリ農場
(2017年8月13日)

が頻りに語られます。しかし、長い目で見れば、本当に怖いのは郷土の荒廃です。

私たちの先祖が営々と築いてきた郷土は、単なる「日本の領土」ではありません。そこで息づいてきた文化——自然と折合って生きる知恵、多様性を許す寛容さの源泉であり、戻る者なら誰をも慰め、受け容れる故郷です。どうしていいかわからぬ時に、とりあえず戻れる拠り所、大地と人間を結ぶ接点、それが伝統や故郷であって、決して売り渡せないものです。

世界は、更に加速度を増しながら変貌し、破局への道を行んでいるようにさえ見えます。生半可な手段や慰めでなく、郷土回復への真剣な努力が、今こそ必要なのは、アフガニスタンでなく、日本の方なのかもしれないと思いました。

PMS秋の陣 マルワリードⅡ

さて、現地の方も「二十年存続体制」へ向けて努力が続けられています。今秋・今冬の大きな取組みは、先の年度報告で述べたように、以下の通りです。

一、マルワリードⅡ（カチャラ村）取水設備の完成。前年度に大きな工事は終えています。前年度に大きな工事は終えています。また、村民（帰還難民）の急増に備え、仮灌漑を急ぎ、年度内に流域全体（約八〇〇畝）の耕地回復を図ります。このために、全長八・四kmの仮送水路を早急に確保する予定です。

二、カマ堰の最終改修。観察期間五年を経、これまでの知見を活かし、維持がより容易になるよう、二つの堰の大掛かり

な改修工事を行います。今冬最大の仕事なので、詳細は次号で紹介致します。

三、ガンベリ主幹排水路（約一・七km）の完工。事実上十分機能していますが、仕上げに蛇籠工と柳枝工が行われます。

四、ガンベリ農場の事業。懸案であったサツマイモ栽培拡大の試みを再開します。農場の整備に追われて中断していましたが、水稻栽培と並び、大きな目標として掲げたいと考えています。

【技術と魂の記録】



アフガン・緑の大地計画

——伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業

中村 哲

安定灌漑は、偉大な「投資」である——

戦乱の続くなか、干ばつと洪水で荒廃に瀕した農地と沙漠。この過酷な自然に、日本の伝統的な工法から学びつつ挑んだ十五年の技術と魂の記録

A5判全カラー1229頁 〔新刊〕本体2300円＋税

*事務局でも取り扱っています

石風社

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-3-24
ダイレイ第5ビル5階 電話092(714)4838
www.sekifusha.com FAX092(725)3440



ガンベリ農場で農業責任者のアジュマルジャン(右)と果樹の観察中の中村医師(2017年7月3日)



行政からの視察団を案内中のジア医師はじめ各責任者(2017年9月11日)

訳およびダリ語版)の出版、斜め堰の模
型製作などが年度内に完了します。

PMS改組と今後

これらの動きに関連して、現地PMSを
中心とする改組が進められています。日本
側ではどうしても現地活動を支えている「ペ
シャワール会」の名が中心になります。が、
実戦部隊である「PMS」を前面に押し出
し、「二十年存続体制」を明確にしようと
しています。日本側では、PMS・Jap
an(支援室)の発足で、ようやく現地事
業の新局面が理解され、実質的な取り組み
が始まったと見えています。治安悪化で現地
への渡航がむずかしくなっているため、今
後折を見て交流の機会を増やす工夫が必要
となっています。

＊

五、JICA(日本国際協力機構)アフガ
ン事務所との共同調査。これも将来に備
え、不可欠のものであります。技術的調査と社
会的調査に分かれていて、何れもこれま
での活動の総合評価となり、灌漑地拡大
に向けて、「PMS方式」の確立につな
がるものです。

六、FAO(国連食糧農業機関)関連事業。
訓練所の建設を完了、教材として「技術
手引書」の英訳出版、技術解説DVD(英

自然相手の灌漑事業、それも戦乱と気候
変化という二重に不利な条件の中で、長い
時間を覚悟しなければなりません。世界全
体で見ても、人間の新局面に挑むフロンテ
ィアと呼んで過言ではないと思います。国
家ではなく、故郷を思う気持ちは世界中同
じです。「故郷(ふるさと)の回復」、これ
が国境を超える共通のスローガンです。

アフガニスタンの「緑の大地計画」は、

こうして普遍性を帯び、真の共同作業にな
っていくと確信しています。

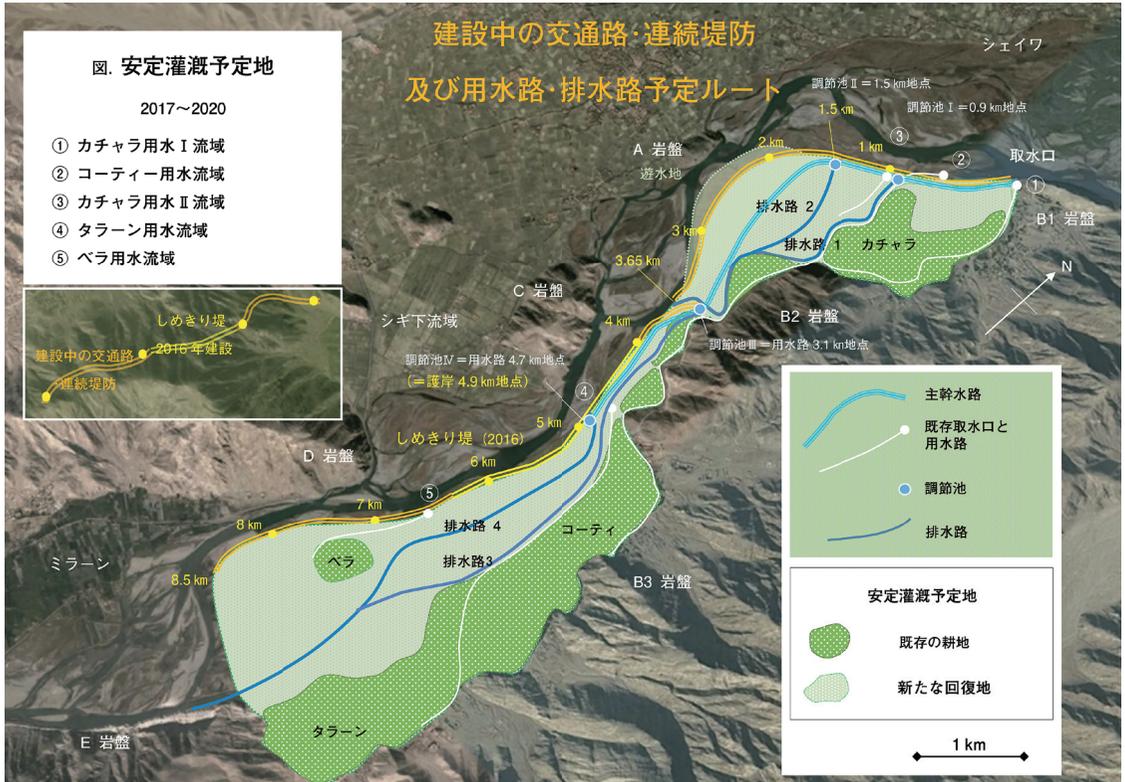
これまでと変わらぬご協力をお願い申し
上げます。



中村 哲(なかもと たく) 九州大学
医学部卒。専門II神
経内科(現地では内
科・外科もこなす)。
国内の病院勤務を経
て、一九八四年パキ

スタン・カイバル・パクトゥンクワ州(旧
北西辺境州)の州都ペシャワールに赴任。
ハンセン病コントロール計画を柱にした、
貧困層の診療に携る。八六年からはアフガ
ン難民のための事業を設立し、アフガン北
東山岳部に三つの診療所を開設。九八年に
は基地病院PMSをペシャワールに建設。
また病院・診療所で患者を待つだけでなく、
パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に
巡回診療も開始。二〇〇〇年以降は、アフ
ガニスタンを襲った大干ばつ対策のための
水源確保(井戸掘り・カレーズの復旧。作
業地千六百余カ所以上)事業を実施。さら
に〇二年春からアフガン東部山村での長期的
復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年
三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年
三月全長約二五キロが開通。ドラエヌール
診療所の年間診療数約四三、六〇〇人(二
〇一六年度)。

【カラー特集】マルワリードII取水口完成をめざす。訓練所完成間近





マルワリードⅡ取水口からの遠望(2017年9月17日)



一夏を経験したマルワリードⅡ斜め堰、右側が取水門、そのすぐ左に土砂吐き兼可動堰が造られた(2017年9月17日)



マルワリードⅡ用水路1500m地点(洪水流入地点)に造成中の沈砂池Ⅱ＝緩衝池。池から送水される主幹水路の基礎造成が進行中。強化堤防は300mの基礎を終えた。堤防は過度に高くせず、最悪でも「緩やかな溢水」とし、池で吸収(2017年8月13日)。



マルワリードⅡ用水路掘削作業の最先端(約3km地点)



完成間近となったガンベリ主幹排水路。両脇に挿し木をした柳が根付いている(2017年9月17日)



11月完成予定の訓練所。手前はミラーン取水門(2017年7月3日)

◎現地スタッフからの便り

門衛からスタート、 農業計画の中心に

PMS職員・農業担当
アブドル モクタール



モクタールらの手で果樹園の手入れがなされる(2017年8月14日)

私はアブドルジャバルの息子でアブドルモクタールと言います。

私は現在ソルフロッド郡シャムシャプー
ル村に住んでいます。

私は二〇〇三年十一月八日にPMSジャ
ラバード事務所のチョキダール(門衛・
警備員)として働き始めました。ジャラ
バード事務所まで長い間勤務した後、コック
助手としてダラエヌール診療所に転任しま
した。私は台所周りの仕事が好きで満足し
ていました。その後、ジャラバード事務
所と新しく出来た現場宿舍勤務になり、そ
こで半年勤めた後、水路現場に移り、倉庫
管理人としてマルワリード水路工事現場
用の備品や機器の準備等に当たりました。

私は時間に正確で仕事に熱心でしたの
で、水路事務所のアシスタントに昇格し、
その後ジャラバード事務所の事務員にな
りました。事務所では購買部の業務につ
き、厨房用食料や水路に必要な物品・備品
の調達にあたりました。カマ取水口工事開
始後は、ブディアライからカマ取水口に巨
礫を供給する職務に就きました。

カマ取水口完成後、中村総院長の指示に
よりガンベリ沙漠現場に赴任しました。こ
こで水路の両側の道路や水路壁のステッ
プ

増設にあたった後、ガンベリ農業計画に移
りました。そこでは農地の整地やワークシ
ョップでブロックの製作、農場内の給排水
路の造成などを行っています。

私はPMSで働いていることを幸せに思
います。それは、私の生活の改善と安定を
もたらしたのがPMSだからです。

PMSスタッフの皆さん、中村哲先生に
心から感謝しています。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。
お送り下さったご寄付については税金控除
の対象となりません。予めご了承ください。
すよう、お願い致します。

▼現地活動を紹介するパンフレットを お送りします

*ペシャワール会の活動をご紹介されるとき
にお使いいただけるものです(払込用紙が
ついていきます)。ご希望の方は遠慮なく事
務局にお申し越し下さい。パンフレットは
A3変形を四折りしたもので、長形の定形
封筒に入るカラー版です。なお、パンフレ
ット、会報等は受け取る意思のある方への
配布を原則としております(ポスティング
等を行わないこととしております)。

キッチン仕事をメインに
一五年働いています

PMS職員・台所担当

ダワジャン

私はグラジャンの息子でダワジャンと言います。ダラエヌールに住んでいます。

PMS・Japanに勤め始めたのは二〇〇二年三月二五日で、ダラエヌール診療所のコックとして雇われ、医療や水路作業に従事する現地職員や日本人ワーカーのために食事を準備しました。そこで一年勤務した後、水路現場のキッチンに転任し現場で泊まり込みで働く人たちや、職員たちや日本人ワーカーの昼食を作りました。現在



作業現場で昼食を準備するダワジャン

はジャララバード本部事務所のキッチンで働き、水路現場事務所でも時々働いています。

私は自分の現在の生活に大変満足し、幸

ダンプカーの運転手
一筋に努めています

PMS職員・運転手

マティウラー

私はハンジャンの息子でマティウラーと言います。

私は運転手として二〇〇三年七月三一日からPMSで勤め始めました。最初は水路現場のダンプカーの運転をまかされ、続いてヌールガル、ブディアライ、シギの村々にスタッフや作業員を送迎する業務で大変忙しく働きました。

その後、私たちダンプカーの運転手は、用水路建設で埋めたてに使う土、砂、砂利等を運送したり、クナルル河に石出し水制を造るために巨礫を運搬したり、掘削作業に従事しました。

PMSの大変な努力と皆の協力により、

せです。何故なら、自身と家族の生活が前進し、経済状況も以前より良くなったからです。私はPMS、殊の外中村哲先生に大変感謝しています。

マルワリード水路や他の水路が完成し、その結果、僻地や荒地、干上がった場所が姿を変えて人々が住めるようになり、農作物が生産され続けるようになりました。パキスタンに避難していた人々も帰還するようになり、PMSが造った灌漑設備は帰還民の家族の生活を支えています。

私はPMS、そして中村哲先生の誠実な努力とアフガニスタンへの想いにとっても感謝しています。中村先生や皆様にも神様のご加護がありますように。



トラックの整備をするマティウラー運転手

◎ワーカー通信

PMSを支えるために

ペシャワール会事務局・PMS Japan(支援室)

瀬上 拓史

中村医師の書籍を読んで

二〇一七年のはじめ、友人からペシャワール会のホームページのURLと書籍「天、共にあり」という一冊の本を贈ってきたことがペシャワール会を知る契機とな

り、四月より勤務を始めて早いもので半年が経とうとしています。

先日、ペシャワール会のホームページにPMS II ペシャワール会の活動年表を更新し、三〇年以上の活動の変遷と事業の積み重ねを学ぶ機会となりました。四月に現地PMS 副院長のジア医師一行がJICAとの共同調査の準備のため福岡県朝倉市にある山田堰を訪問した際にはペシャワール会総出で歓迎をし、親睦を深めました。この訪問を年表の一事項として追加する時、PMSの技術の広域展開に向けたJICAの共同調査と共に、PMS II ペシャワール会の歴史がまた一つ刻まれようとしているの

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む

中村哲 [6刷] 1800円

辺境で診る辺境から見る [5刷] 1800円

医者 井戸を掘る [12刷] 1800円

医は国境を越えて [7刷] 2000円

ダラエ・ヌールへの道 [5刷] 2000円

ペシャワールにて [8刷] 1800円

アフガン農業支援奮闘記

高橋修・編著 2500円

聖愚者の物語

甲斐大策 1800円

石風社

福岡市中央区渡辺通2-3-24

電話092(714)4838

人は愛するに足り、真心は

信ずるに足る アフガンとの約束

中村哲/澤地久枝(聞き手) 2000円

東京都千代田区一ツ橋2-5-5

岩波書店 電話03(5210)4000

天、共に在り アフガニスタン

三十年の闘い

中村哲 1600円

東京都渋谷区宇田川町41-1

NHK出版 電話03(3464)7311

価格はすべて本体価格(税別)です

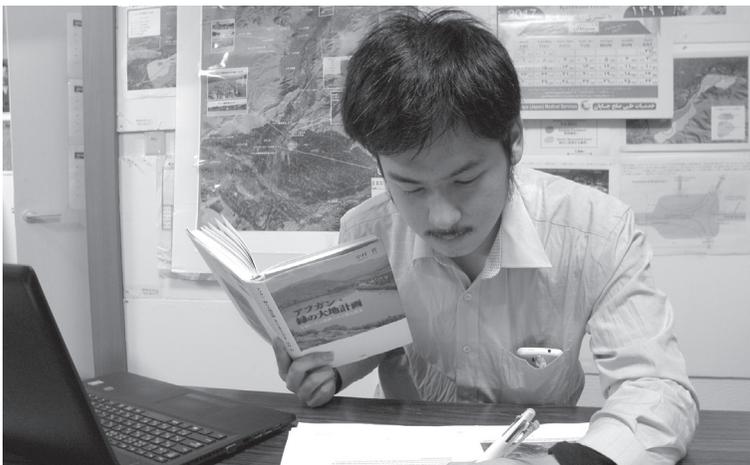
アフガニスタン DVD VIDEO

用水路が運ぶ

恵みと平和

朗読 吉永小百合

3000円(税+送料込)



PMS-Japan(支援室)で、現地での教材となる技術書英語版の編集に取り組む筆者

だと感じます。

二十年継続体制という言葉がこれからどのような実態を現すのか、勤務を始めて半年を経ない私には予測できません。しかし、ホームページに情報を一つずつ更新し、後に述べる書籍「緑の大地計画」の校正を一ページずつ進めるように、着実に一日一日を積み重ねてゆくことが私がここででき

る最善のことであると考えています。

ベシャワール会事務局には、中村医師の講演会や活動紹介のための写真展を各地で開催したいという依頼の電話が頻繁に鳴ります。中村医師の思想と活動を広報することへの尽力を厭わない人々が日本全国にいらっしゃることを知り、日本とアフガニスタンの間にある目に見えぬ良心の繋がりを日々感じます。

現地と電話で情報交換

福岡のベシャワール会事務局内のPMS Japan(支援室)では毎週水曜日に現地PMS事務局のスタッフに電話をし、現地語として使用されるパシュトゥー語を用いて会計、気候、治安状況等について情報交換を行います。九月にイスラム教の犠牲祭がありました折、「イード ムバーラック! (犠牲祭おめでとう)」と祝福の挨拶をし、事務局内では、現地のスタッフ全員がその日は十分にお腹を満たせるよう、羊四頭を贈呈するため寄付を募りました。また、事務局内にはイスラムの暦を読むカレンダーが飾られています。常にアフガニスタンの人々と共にあるPMSはベシャワール会の活動では、決して現地の伝統文化の否定と先進性の押し付けをするのではな

く、現地の人々の価値観の理解と尊重が肝要であると痛感しました。

急増する送還難民

多くの犠牲者と難民を生み出したアフガニスタン戦争後、内紛は継続しています。二〇一七年、PMSの活動地にもパキスタンから強制送還される難民数が急増し、緊急に各農村へと灌水をする必要があると聴きました。護岸工事、堰の造成などには重機を多く使用しますが、活着率を上げるため、樹木への水遣りや蛇籠の石積みなどでは多くの労働者の根気と繊細な手作業が必要であり、地域住民と難民の雇用機会を多く創出しています。水源、農地、雇用等生きたため基盤を築くPMSがアフガニスタンの地域住民に深く信頼され、強く必要とされていること、現地の人々における命の砦であることを、中村医師から送付される週間活動報告書(週報)を読み、学んでいます。

国連食糧農業機関(FAO)の協力と共に、現地では訓練所の建設が完成を見ようとしています。週報の写真に写る、完成に近づきゆく煉瓦造りの建物と汗水を流して建設を進める人々の姿を見ると、今後アフガニスタンの人々がPMSの作業地におい



犠牲祭を迎える。PMS農場(2017年9月11日)

て実地で技術を学び、体得し、他の地域にもPMS方式の精神と技術を基盤にした河川灌漑工事が実施される日が近いことを感じます。

英訳と現地語のテキスト

PMS Japan(支援室)では、今年出版された書籍「緑の大地計画」の英訳版の校正を着々と進め、現地訓練所で使わ

2018年カレンダー

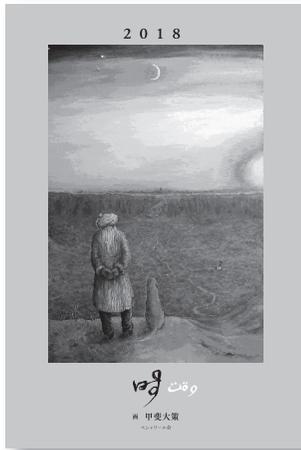
「時」

画・甲斐大策

同封のハガキでご注文ください

A2判変形(画・7点)

定価1500円(税・送料込)



今年も恒例のカレンダーを制作します。部数に限りがありますのでお早めにご注文下さい(ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります)。

※代金は後払い。払込用紙を同封します

れる教科書として分かりやすく活用されやすいものとなるよう作業を進めています。一文一文を輪読し、構成や文章の内容を整理、掲載される一枚一枚の写真、図、表を吟味し、今後PMSの技術を学び活かす人々がより深く理解し実践的に活かせるものとなるよう作業を進めています。また現地では、英文を基に現地語での翻訳作業が進められようとしています。アフガニスタンの各地で、PMSの訓練を受け河川灌漑工事を行う人々が、「Green Ground Project」を横に置き参考にしながら蛇籠

を組み、植樹をし、灌漑施設的设计・工事をするのであろう、そして完成した灌漑施設による恩恵を受けアフガニスタンの伝統と其々の家族を守りながら平穩に暮らして欲しいと考え、作業をしています。

最後に、戦争、干ばつ、病気、貧困が蔓延するアフガニスタンの他地域でもPMSの精神と技法が多くの人に認知され、実践されることを、そしてアフガン国民の名誉と人々の安全が保障され続けることを、PMSの一スタッフとして支援室から祈ります。

サファル・バハール(良い旅を)

甲斐大策

30

日没後も暑い。クンドウズの松特有の長い葉は項垂れた儘である。廃屋同然の旧国営ホテルへ長身の男達が入っていき。誰もが鼻梁高く眼窩は深い。伴う妻子に瞳は優しい。七〇年代、此処の支配人を務めた者の長男が導く、谷の者の寄り合いである。

アフガニスタン東部から東へインダス河左岸迄四〇〇km余、北緯三四度線を三六度線へ二〇〇km余、過酷この上ない峻嶺と深溪の山地が在る。都邑の者達は一帯を「山国」と呼び捨て、山びと達を無知で粗暴、不潔な「不信心者」と呼ぶ。

アフガニスタン側では時の王が、近代兵器で谷々を制圧、山びと達にイスラムを強い、「光明の地」と命名、二〇世紀初めだった。

西紀前四世紀、アレクサンドロスが驚嘆、一四世紀タイムールが恐怖した山びと達の剛勇振りは、谷の奥深く消えた。

近代、下界との接触は天然痘や結核を齎し、多くの山びと達が土に還った。一方で西歐は、山びと達が密かに護つてきた木彫の祖霊像や騎馬像を発掘、博物館へ収める。善行としてだった。抽象的な文様が埋める家具や家屋、繊細無比に特異な美学が彩る刺繍、谷の音階と古代ギリシャのそれとの類似、金髪碧眼の人々、出自の謎、いずれも西歐の好奇心と物慾を刺戟、他方下界の紛争は全ての谷へのナバーム爆撃を誘いもした。山氣と祖霊が育んだ高潔な山びと達は、戦乱の下界で寡黙に生きる。自らヌリスタニ、と口にする事はしない。

寂れた薔薇園跡に中国製の蚊遣りの煙が漂い、ホジャの一行が食後の茶を手に、同じ谷を出た者達の動向を伝え合う。七七年迄パール墓廟の警備員だったアガ爺が地面に坐り、水瓶の腹を小石で打ち、呟くように唄う。

身を屈めてホジャが耳打ちする。

「パパ、少し水を抜いた方が……。」

●事務局長便り

*七月五日、六日に発生した北部九州の豪雨災害は、まさに青天の霹靂でした。今年の夏は、南アジアに熱波が発生したため、アフガニスタンでも二〇一〇年に起きた大洪水の再来が危惧されていきました。そのために中村医師は、予定を変更して七月には現地に帰り現場に張り付いていました。現地は、幸いにも洪水の発生は免れましたが、私たちのプロジェクトの原点とも言える山田堰のある朝倉、日田地域が「線状降水帯」の発生による記録的な豪雨に見舞われたのです。朝倉の最大一時間降水量一二九・五ミリ、最大二四時間降水量は五四五・五ミリです。経験したことのない激しい降雨で、滝壺にいるようだったと言います。ちなみにアフガニスタンの年間降水量は三五〇ミリです。今回の筑後川本流の増水量は、五年前に起きた洪水時よりも数十倍低かったのですが、支流の杉林の土砂崩れや流木による溢水被害は甚大で、三六名の方が亡くなり、いまだ行方不明の方もいらっしゃいます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますと共に、朝倉・日田地区の一日も早い復旧を願っております。

*九月一九日、ようやく土砂や流木が撤去された朝倉の三連水車と山田堰を、アフガニスタンの「水・エネルギー省」の副長官ムハンマド・ダウード氏一行が視察に訪れました。山田堰土地改良区の徳永理事長による懇切な

る説明を午前中に受けた後、午後からは、県

国の河川担当者からの説明の後、中村医師からPMSの現地プロジェクトについてのレクチャーがありました。アフガニスタンに適合した伝統工法の説明の後、砂漠化した土地が緑に変化するスライドには、拍手と感動が広がり、通訳のアフガン人女性がハンカチで涙を拭っておられたのが、印象的でした。

*この九月でベシャワール会発足三四年になりました。事務局は、日々地道な作業を続けることでPMSを支えています。事務局員が高齢化してきました。若い方がたの参加を期待しております。もちろん年齢制限はありません。

●PMS支援室より

PMSが造っている灌漑設備の水利調査が、十一月から本格的に開始されるにあたって、ジャ医師をはじめとするエンジニア達が学習のため来日することが決まりました。水利調査に必要な学習項目が準備され、彼らが長い間中村医師と共に現場でやってきた事の理論づけと更なる技術の習得になります。この技術が、今なお干ばつに被災している母国で必ずや役にたち、彼らの手で畑が一つでも復活してゆくことを期待し、いづれアフガニスタンで彼らと共に働こうとしている支援室メンバーもこの機会を活用させて頂き、一緒に学習して参ります。ご計画頂いた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

会 則

①本会の名称をベシャワール会とする。
②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。

④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。

⑨本会の事務局をFARAHOUSE
(〒八二一〇〇二三 福岡市中央区警固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号
TEL〇九二―七三二―二三七二)内におく。

総会、現地報告会は、原則として毎年六月第一土曜日に開催いたします。